



勝賀野

しようがの



県道

道19号窪川船戸線から県道323号に入り北上。上小野川地区を過ぎると、左に中村地区、右および前方が勝賀野地区である。四万十川の支流・勝賀野川の中流あたり。

29世帯・61人の住民が暮らしている。

勝賀野という地名は、戦国時代に豪族・勝賀野氏がこの辺りを本拠地としていたことによる。勝賀野氏は、仁井田五人衆の一角、西氏の分家である。地区のやや北東にある土居山(山上近くに山城(勝賀野城)を築いた。ただ、勝賀野氏がこの地にいた時代はそう長くない。勝賀野衛門尉(右衛門尉とも書く)の代に、川ノ内・米ノ川・下久礼(畠)地などにも領地があり、この頃が、もともと権勢を振るっていた時期であったが、彼は、1592年から1598年にかけて、豊臣秀吉が朝鮮半島で起こした文禄・慶長の役で討死したと伝えられている。その後を託されたのは、彼の息子・次郎兵衛益家。次郎兵衛は、才覚に富み、さらに、武芸も長けた優秀な武将であったらしい。その実力を見込まれて、蓮池城(現土佐市)城主で、長宗我部元親の甥にあたる吉良親実(吉良)に仕えることとなる。それにもない、勝賀野氏によるこの地の直接の支配は終わる。勝賀野氏の出世のスタートに見えた吉良氏への家臣昇格であったが、この後、元親の跡継ぎ問題で吉良親実が元親の怒りを買って切腹。この騒動に巻き込まれて次郎兵衛も討たれるという非業の最後を遂げてしまうのである。この襲撃を受けた際の彼の奮戦ぶりは見事で、



工事中の山：勝賀野城があったとされる土居山は、昨年の台風の際に大きく崩落し、現在復旧作業が続く

敵によって残された文献にさえ、その果敢な闘いぶりが讃えられているくらいである。

さて、現在の勝賀野。米、生姜、ニラなどの栽培が盛んである。その農地面積は、戦国期からほとんど変わっていない。つまり、勝賀野の田畑は、衛門尉の頃から永々と、地区の勤勉なる人々によって守られてきたのである。

地区の方に面白いことを聞いた。何年前か前まで行われていた七里地区の「地区対抗運動会」で、勝賀野地区の揃いの鉢巻きは「マル勝」の中に勝の「一字」であったという。まるで勝賀野氏の旗印のようである。次郎兵衛がいたなら、この鉢巻きを締め、獅子奮迅の活躍を見せたに違いない。

ところで、高知県で時々見られる勝賀野という姓は、ここ四万十町勝賀野がルーツである。次郎兵衛の蓮池への進出を機に土佐一帯に広がったと見られる。ちなみに勝賀瀬という姓もあるが、このルーツは、いの町勝賀瀬である。

(4月30日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	8,628	-6	男 4	14	40	36
女	9,650	-7	女 3	17	45	38
計	18,278	-13	計 7	31	85	74
世帯数	8,665	19	(4月中の届出)			

四万十川の 水質状況

	適正值(mg/l)	5月8日
リン酸	≤ 5.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	測定範囲以下
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.350
化学的酸素消費量	≤ 10.0	測定範囲以上

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)